

弾道ミサイル発射

Jアラートによる情報伝達

ミサイル発射。ミサイル発射。●●からミサイルが発射された模様です。建物の中又は地下に避難してください。（総務省消防庁）

屋内退避 【行動の基本】「姿勢を低くし、頭部を守る」

自宅等にいる場合	
避難行動	教職員の動き（留意事項）
・安全確認が取れるまで自宅等に待機し、身の安全を確保する。	※生徒等が自らの判断で冷静に行動できるよう、事前指導を行う。

登下校中の場合	
避難行動	教職員の動き（留意事項）
【徒歩の場合】 ・直ちに建物（できればコンクリート造り等の頑丈な建物）の中や地下に避難する。 ・近くの建物の中や地下に避難することが難しい場合は、物陰に身を隠すかその場で地面に伏せ、頭部を守る。 【自動車内にいる場合】 ・ガソリンなどに引火する危険があることから、車から降りて近くの建物や地下等に避難する。 ・周囲に避難できる場所がない場合は、車から離れて地面に伏せ、頭部を守る。 ・車外に出ることが危険と判断される場合は、車内で姿勢を低くして頭部を守る。	※生徒等が自らの判断で冷静に行動できるよう、事前指導を行う。 《指導内容（例）》 ・屋外スピーカーの警報を聞く。 ・登下校中は、携帯電話を持参していない、屋外スピーカーの音が聞こえないなどの状況がある場合は、周囲の変化や人の行動を参考に、危機を察知し、避難行動を取る。 ・公共交通機関を利用している場合は、車内に流れる情報や乗務員の指示を注意して聞き、その指示に従う。

学校にいる場合 ※校外活動中を含む	
避難行動	教職員の動き（留意事項）
【校舎内の対応】 （地下室や窓のない部屋にすぐに移動することが難しい場合） ・窓からなるべく離れて床に伏せて頭部を守る。 ・机の下に入って頭部を守る。 【校舎外の対応】 ・直ちに校舎内に避難する。（近くの建物の中や地下に避難することが難しい場合） ・物陰に身を隠す。 ・その場で地面に伏せ、頭部を守る。 【校外活動中の対応】 ・すぐに避難できる（頑丈な）建物や地下があれば、直ちにそちらに避難する。	○避難行動を取るよう指導する。 ○（必要に応じて）定められた避難場所へ避難誘導を行う。 ○（外にいる場合には）校舎内へ避難誘導し、避難行動を取るよう指導する。 ○携帯電話等を活用し、情報収集の手段を確保しておく。 ○危機事案が発生した場合の避難（避難場所等）について、事前に確認しておく。

（日本の上空を通過又は日本の領域外の海域に落下）
ミサイル通過。ミサイル通過。先程のミサイルは、●●地方から●●へ通過した模様です。不審なものを発見した場合には、決して近寄らず、直ちに警察や消防に連絡してください。（総務省消防庁）

Jアラートによる情報伝達

（日本に落下する可能性がある）
直ちに避難。直ちに避難。直ちに建物の中、又は、地下に避難して下さい。ミサイルが落下する可能性があります。直ちに避難して下さい。（総務省消防庁）

避難行動解除

避難行動継続 → **上記同様の避難行動をとる**

自宅等にいる場合
■生徒等は、保護者等の指示に従うなどして、日常生活に戻る。 ■不審なものを発見した場合には、決して近寄らず、直ちに警察、消防に連絡する。

登下校中の場合
■（登校中の場合）教職員は、登校後、生徒等の人数確認を行う。 ■（下校中の場合）教職員は、必要に応じて、生徒等の安全確認を行う。 ■教職員は、テレビ等を通じて最新の情報収集に努める。 ■不審なものを発見した場合には、決して近寄らず、直ちに警察、消防に連絡する。

学校にいる場合 （校外活動中を含む）
■教職員は、生徒等の人数確認、周囲の安全確認を行う。 ■教職員は、テレビ等を通じて最新の情報収集に努める。 ■不審なものを発見した場合には、決して近寄らず、直ちに警察、消防に連絡する。

Jアラートによる情報伝達

ミサイル落下。ミサイル落下。ミサイルが●●地方に落下した可能性があります。続報を伝達しますので、引き続き屋内に避難して下さい。（総務省消防庁）

自宅等にいる場合
■換気扇を止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉する。

登下校中の場合
■口と鼻をハンカチで覆い、密閉性の高い屋内又は風上へ避難する。

学校にいる場合 （校外活動中を含む）
■（屋内にいる場合）換気扇を止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉する。 ■（屋外にいる場合）口と鼻をハンカチで覆い、直ちに校舎内に避難する。

※ 追加情報があるまで、屋内避難を継続し、テレビ、ラジオ、インターネット等を通じて情報収集する。